

2021年11月18日

令和3年度 中学校教育専門部会研修会報告書

【日時】2021年11月18日（木）静岡県私学会館 5階会議室

13:00～ 受付

13:30～13:35 開会式 部会長挨拶 星野明宏（静岡聖光学院中学校・高等学校 校長）

13:35～16:05 講演

演題「未来に必要な学びから評価方法を考える」

講師 静岡聖光学院中学校・高等学校 田中潤先生

質疑応答、グループワーク

16:05～16:15 諸連絡・アンケート記入・閉会

【講師プロフィール】 広尾学園中学・高等学校にて教科部長・教務統括部長、三田国際学園中学・高等学校にて学習指導部長・教頭を経て、2020年度より聖学院中学・高等学校にて新クラスの構想及び設置を新クラス設置統括長として担当。今年度より静岡聖光学院中学校・高等学校にて校長補佐として活動し、21世紀型の学びの推進を行っている。

【研修内容】

① 社会がどう変わり、何を要請するか

認知のプロセスとして、知覚で認知するのは脳の6%しか使っていない。96%は知識や経験からくる概念として認知している。

今までは一斉に効率的に知識を詰め込むことが求められてきた。

On line が普及し、反都市化への反転がすすみ、ライフスタイルの多様化、多層化がすすむ

そのため、自分らしく生きる。それが社会に認められる。さらに、それが未来へとつながる世の中になっていく

これからは学び方を学ぶこと、課題を見つける力、課題を解決するための力が求められてくる。

② どのように学び、どう評価するか

勉強という言葉は「本来は気が進まない事を仕方なくする」意味であった。

「勉強やっちゃいなさい」という言葉には無意識のうちに勉強は嫌なものであるという意識を植え付けている。そして、このような言葉を浴びせ続けると無気力な人間を生んでしまう。

勉強の細分化が必要（具体的にどの分野のどの部分ができているのかをメタ認知させること）

ポモドーロメソッドでは25分でやれることを考える。もっとやりたいと思っても生産性はない最初の25分で何をやるのかを可視化させる。たとえ全部できなくても良い。

「できない」からどのセグメントで失敗したのか、どんなやり方で失敗したのかという認識に転換させることが重要。

評価の仕方の前に「何のために評価をするのか」をもう一度考えてみることを。

③ 学びと評価の一例ー構造的探求の方法

成績と学習評価を区別すること

学習目標（これから起こってほしいこと）と学習成果（実際に起こった現実）を区別すること

【実例】中2の社会の授業「農民を苦しい生活から救い出せ」

① 農民にインタビュー

② 朝廷に改善のための要望ビデオメッセージを作成

題材:奈良時代の税制

STEP① 授業単元名を決める:本当に税は重かったのか?

STEP② 題材の見方:“批判と解決”

STEP③ 領域の明示:歴史/地理

STEP④ 習得すべき考え方:税制に関する構造的課題の発見

STEP⑤ 思考を促す問い:農民に取材を行い、朝廷への意見動画を作成しなさい

STEP⑥ 獲得すべき知識:租庸調の特色・山上憶良・税制の構造

STEP⑦ 概念や知識の転用を確認する

STEP⑧ 単元末評価課題を設定する

まとめ

学び方を学ぶとともに、生き方を創造できる教育が求められてくる。技術が発展し、言葉も指数関数的に増える中、大人が知識のアップデートをし続けなければならない。学びのDX（デジタルトランスフォーメーション）が重要である。自分らしく生きるために学び方を学び、既存の価値観を撤廃し、多様な生き方が尊重される土台を作っていくことで、こどもたちにとって何が幸せかを考えていく。最大多様な最大幸福